

機関番号：22604

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2007～2010

課題番号：19500541

研究課題名(和文) オリンピック大会開催時のオリンピック平和運動に関する調査研究

研究課題名(英文) Research on the Peace Movement on the occasion of the hosting the Olympic Games

研究代表者

舩本 直文(MASUMOTO NAOFUMI)

首都大学東京・大学院人間健康科学研究科・教授

研究者番号：70145663

研究成果の概要(和文)：

2008年北京大会、2010年バンクーバー冬季大会、2010年シンガポール・ユース大会を対象に調査研究した。北京大会では国際聖火リレー問題および愛国主義教育との関連から平和教育が十分ではなかった。バンクーバー大会では国際聖火リレーの禁止およびオリンピック教育における平和運動の不十分さから平和メッセージの発信不足。シンガポール・ユース大会でも平和的メッセージの発信の不十分さ。以上が明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：

The objects of these studies were the 2008 Beijing Olympic Games, the 2010 Vancouver Winter Olympic Games and the 2010 Singapore Youth Olympic Games. In case of Beijing Games, the peace education was not sufficient because there were big troubles in the global torch relay and the effects of the patriotism education in the Olympic education. In the case of Vancouver Winter Games, because of the forbidden of the global torch relay by IOC, it was not sufficient for the peace movement to be covered by the Olympic education in the city. It was clarified that the peace messages from SYOGOC was insufficient as the peace movement of Olympic Movement.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	900,000	270,000	1,170,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学 ・ スポーツ科学

キーワード：オリンピック、平和運動、開催都市、聖火リレー、オリンピズム、オリンピック・ムーブメント、オリンピック教育、採火式

## 1. 研究開始当初の背景

国際オリンピック委員会(IOC)はオリンピック憲章で平和運動に関して以下のように謳っている。根本原則2で「オリンピズムの目標は、スポーツを人間の調和のとれた発達に役立てることにある。その目的は、人間の尊厳保持に重き

を置く、平和な社会を推進することにある。」(日本オリンピック委員会(JOC)訳、オリンピック憲章、2004年版、JOC, p.9)。また、このオリンピズムという理想を実践していくオリンピック・ムーブメントの目的として「オリンピック・ムーブメントの目的は、オリンピズムとその諸価値に従い

スポーツを実践することを通じて若者を教育し、平和でよりよい世界の建設に貢献することである。」(JOC訳, オリンピック憲章, 2004年版, JOC, p.10)。このような目的に従って、オリンピックを開催する各都市は平和な世界の実現に向けた開催計画をオリンピック招致のビッド・ファイルとして作成してきている。

しかしながら、メディアを中心とした一般大衆のオリンピック競技への関心の焦点はアスリートたちの競技成績やメダル獲得競争に向き、この高邁な平和運動としての側面が看過されていると言っても過言ではない。そのため、世界のオリンピック研究面でもオリンピック・ムーブメントにおける平和運動の研究はほとんど見られない。僅かに、1984年のサラエボ冬季大会の開会式で平和のシンボルに言及した Arthur Takac (Takac, Arthur, Sarajevo Memorial: Olympic Ceremony and Peace Symbols. Moragas, MacAloon, and Llines Eds.) Olympic Ceremonies: Historical Continuity and Cultural Exchange. IOC, pp.165-167. (1996) と Masumoto の『東京オリンピック』という公式記録映画に描かれた平和メッセージ性への言及くらいのものである (Naofumi Masumoto, “Tokyo Olympiad”: Olympism Interpreted from the Conflict Between Artistic Representation and Documentary Film. International Journal of Sport and Health Science, Vol.1, No.2, pp.188-195, (2003))。確かに、オリンピックの休戦宣言 (Olympic Truce) が国連総会で決議されたのが1994年のことであるから、オリンピックと平和に関連した研究が少ないのも首肯できるかもしれない。しかし、オリンピズム及びオリンピック・ムーブメントの目的に掲げられた平和な世界の実現に向けた営みの達成状況は研究するに十分な課題である。例えば、2006年のトリノ冬季大会は平和色の強かったオリンピック競技大会であった。この大会では、開会式でIOC ジャック・ロゲ会長の「オリンピック休戦」の提唱もあって、選手村にオリンピック休戦の賛同署名用のボードが掲げられたし、開会式でもオノ・ヨーコ氏の平和メッセージの読み上げもあった。市中にもオリンピック休戦に賛同する署名BOOKも準備されていたことはすでに報告した (2006トリノ冬季大会雑感: トリノ発オリンピック・ムーブメントの平和運動. 舛本直文, JOA Times, 第29号, pp.15-16, (2006))。しかしながら、国内・国外を通じて、スポーツ科学の世界、特にオリンピック研究の世界では平和研究についてほとんど言及されていないのである。

一方、平和学の分野を概観してみても、日本学術会議内に設けられた平和問題研究連絡委員

会による「平和学の歴史、現状及び課題」の整理や日本平和学会の「グローバル時代の平和学」(全4巻)をレビューしてもオリンピックの平和運動への着目は皆無とあってよい。

このようにオリンピック競技大会のもつ平和運動としての側面は看過されてきたとあってよからう。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、オリンピックの根本精神であるオリンピズムとそれを実現していくためのオリンピック・ムーブメントの目的として示された「平和な社会の推進」および「平和でよりよい世界の建設」という高邁な目的に対して、最近のオリンピック開催都市および開催予定都市の計画と実際の活動を調査分析し、それらの都市の平和運動の実態を明らかにすることによって、平和運動としてのオリンピック競技大会の目的達成状況を検証すること、である。

## 3. 研究の方法

本研究期間中のオリンピック大会の対象は2008年北京大会、2010年バンクーバー冬季大会、2010年シンガポールユースオリンピック大会である。それらの各大会期間中には開会式を中心とした平和運動を中心に現地調査を行った。また、開会式および閉会式の国際テレビ映像を録画し、平和運動や平和メッセージの分析・解釈を行った。さらに、ローザンヌのIOCオリンピック研究所、アテネの国際オリンピック休戦センターにも出向いて資料収集およびインタビュー調査を行った。2008年北京大会の際には聖火リレーの平和メッセージを明らかにするためにロシアの聖火採火式を現地調査した。その北京大会の国際聖火リレーの様子はテレビ録画して分析・解釈した。

また、各開催国のオリンピック運動の一環として実施されているオリンピック教育に着目し、その中の平和教育や平和運動との関連を調査した。

## 4. 研究成果

2007年度は以下のような調査を行った。

- (1) オリンピック開会式の映像、総集編の映像、オリンピックの平和運動やオリンピック教育の記録等の映像と文献資料を収集した。
- (2) 2008年北京大会に向けたオリンピック平和運動に関する資料を収集・整理した。
- (3) これまでの研究成果の整理と今後の研究方向のフレームについて英語圏の国際学会にて報告し、その有効性と妥当性を世界に問うた。その際に、オリンピック研究者ネットワークを利用して研究情報を交換した。さらに、海外共同

研究者との資料収集等の研究打ち合わせを行った。

(4)ローザンヌのオリンピック博物館、IOCオリンピック研究センター、国際オリンピック休戦センターにおいて資料収集およびインタビュー調査を行った。特に、オリンピック開会式およびオリンピックの平和運動とその教育の関連資料を収集・整理した。

(5)2008北京大会の聖火リレー採火式の調査を行い、聖火リレーの平和的メッセージについて情報収集を行った

(6)収集したオリンピック開会式や平和運動とその教育に関する資料を整理した。

以上の研究成果から、オリンピックの理想としての平和運動と北京大会の国際聖火リレーに典型的にみられた現実としての政治的軋轢などの諸問題が浮き彫りになった。そのようなオリンピックの諸問題の改善に向けてオリンピックの平和運動という理想の重要性が確認された。

2008年度は以下のような研究を行った。

(1)最近の開催国のオリンピック開会式のテレビ映像資料および総集編映像の中のオリンピズムやオリンピック平和運動とその教育に関する象徴表現、公式報告書などの資料収集・整理を行った。

(2)北京オリンピック大会の国際聖火リレーおよび開会式の調査、内容分析・解釈

①北京オリンピック大会の国際聖火リレーおよび開会式時における「オリンピック平和運動とその教育」について大学院生王一民氏と現地調査を行った。また、開会式の国際テレビ映像を分析・解釈し、国連とIOCが連携したオリンピック休戦決議の有効性にも着目して分析した。

②北京大会時のオリンピック関連学会に参加し、これまでの研究成果を報告するとともに、オリンピック研究者ネットワークを利用して意見交換と資料の収集に当たった。

(3)研究成果の中間公表およびオリンピック平和研究資料収集およびまとめと整理

北京オリンピック関連の平和運動を中心に国際スポーツ哲学会において研究成果の中間公表を行うとともにローザンヌのオリンピック研究所、アテネの国際オリンピック休戦センター(IOTC)とも連携し、最新の資料収集を行った。

以上の研究成果から、オリンピックの理想としての平和運動と北京大会開会式時に勃発したグルジア紛争のような現実的な政治的軋轢などの諸問題が再び浮き彫りになった。また、国連総会によるオリンピック休戦宣言の無力性が明確になった。しかしながら、オリンピックの諸問題

の改善に向けてオリンピックの平和運動という理想の重要性がここでも再確認された。

2009年度は以下のような研究を行った。

(1)2010年バンクーバー冬季大会の開催に向け、カナダのオリンピック教育における平和運動に関する資料の収集と整理

(2)北京オリンピック大会のオリンピック教育における平和運動関連の再調査、内容分析・解釈

①北京オリンピック大会における「オリンピック平和運動とその教育」について大学院生王一民氏と現地の再調査を行った。

②北京大会時の「オリンピック平和運動とその教育」に関してして大学院生王一民氏と共著で研究成果を論文発表するとともに、引き続きオリンピック研究者ネットワークを利用して資料の収集と整理に当たった。

(3)研究成果の中間公表

北京オリンピック関連の平和運動を中心に日本体育学会において研究成果の中間公表を行った。

(4)2010年バンクーバー冬季大会現地調査  
国際オリンピック休戦センター(IOTC)とも連携し、バンクーバー冬季大会の開催時の現地調査を行い、平和運動とオリンピック教育に関する最新の資料収集を行った。

(5)2010年シンガポールユースオリンピック資料収集

2010年に開催予定のユースオリンピック大会の平和運動関連の資料収集を行った。

これまでの研究の中間成果から、北京大会に典型的に観られたように、オリンピックの理想としての平和運動の不十分さと諸問題が浮き彫りになった。このような諸問題の改善に向けてオリンピックの平和運動という理想の重要性が再確認されたが、一方でアテネの国際オリンピック休戦センターおよび国連総会決議の無力さも明確になった。

2010年度は以下のような研究を行った。

(1)北京大会、バンクーバー大会の各種テレビ放映資料および過去の公式映画資料の中のオリンピック平和運動とそのためのオリンピック教育に関連するデータの収集・整理を進めた。データ化されたオリンピック映像資料および北京、バンクーバー両オリンピック開催時の平和運動のテキスト資料をジャンル別に特徴的な様相を抽出して分析・解釈し、オリンピック平和運動とそのオリンピック教育の理念と実態を明らかにしていった。特に、北京大会時の平和運動とオリンピック教育に焦点を当てて分析・解釈した。

(2)データ整理されたオリンピック映像および北

京、バンクーバー両大会の開会式調査の整理・分析・解釈を行った。

(3)シンガポール・ユース大会における平和運動に関する現地調査を行った。特に、開会式と文化教育プログラムに焦点を当てて調査した。オリンピック教育の twin program 実践校の訪問調査も行った。

(4)2010年度の国際オリンピックシンポジウムおよび国際スポーツ哲学会において、北京オリンピック開催時の平和運動およびそのためのオリンピック教育の実態について研究成果を報告し、世界的評価を受けた。

以上の研究から得られた結果として、2008年北京大会では愛国主義教育との関連から平和教育が十分ではなかったこと、2010年バンクーバー大会では国際聖火リレーが禁止となったことを含め平和的メッセージの発信不足およびそのためのオリンピック教育の不十分さが明らかとなった。

**国際的評価:** 以上のような4カ年にわたる研究成果は毎年の国際スポーツ哲学会および2年ごとの国際オリンピック研究シンポジウムにて逐次報告して国際的評価を得てきたが、着目の視点と導き出された研究結果の斬新さは国際的に高い評価を得てきた。それらの評価を受けて研究論文及びプロシーディングとして公表してきた。さらに、これらの研究成果を受けて、各種事典への執筆、英文での図書執筆など国際的に評価の高いものに執筆し、発信することになった。

**今後の研究課題と展望:** これまでの研究成果から、理念としてのオリンピックの平和運動は否定できないが、現実的にはオリンピック時の休戦をも実現できないという国際政治が立ちはだかっていることが明確である。一方で、ユース世代にこの高邁な理想を普及していくためにはオリンピック教育が重要であることも明白である。そのために、今後の研究課題として、継続的に開催国のオリンピック教育と平和運動の連携の調査、およびユースオリンピック大会における文化と教育プログラム(CEP)の効果に関する追跡研究が課題として残される。

#### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計9件)

①Yimin Wang and Naofumi Masumoto, The Heart-to-Heart Partnership Program of the 2008 Beijing Olympic Games. Journal of Olympic History. 有, 2010, 18-3:35-40.

②舛本直文, 2008年北京オリンピック競技大会における平和運動. 体育・スポーツ哲学研究. 有, 2010, 32-1:1-11.

③Naofumi Masumoto, 'One Dream' was for what? The Olympic education for the peace

movement in the 2008 Beijing Olympic Games. Rethinking Matters Olympic: Investigations into the Socio-Cultural Study of the Modern Olympic Movement. 10<sup>th</sup> International Symposium for Olympic Research (ICOS). 無, 2010, 439-447.

④Yimin Wang and Naofumi Masumoto, Olympic Education at Model Schools for the 2008 Beijing Olympic Games. International Journal of Sport and Health Science. 有, 2009, web版

⑤Naofumi Masumoto, The Birth of the Modern 'Olympic Truce': The Chronological Approach. Pathways: Critiques and Discourse in Olympic Research. 9<sup>th</sup> International Symposium for Olympic Research. International Centre for Olympic Studies. 無, 2008, 498-502.

[学会発表](計18件)

①舛本直文, オリンピック教育にみる「平和運動」—2008年北京大会を事例に. 日本体育学会, 2010年9月10日, 中京大学(豊田市)

②Naofumi Masumoto, One Dream? : The peace movement in the 2008 Beijing Olympic Games. 38<sup>th</sup> Annual Meeting of the International Association for the Philosophy of Sport (IAPS). 2010.9.15, (Rome, Italy).

③舛本直文, 2008年北京オリンピック大会の平和運動: 国際聖火リレー騒動とオリンピック休戦. 日本体育学会, 2009年8月28日, 広島大学(東広島市)

④Naofumi Masumoto, The Birth of the Modern 'Olympic Truce The Chronological Approach. 9<sup>th</sup> International Symposium for Olympic Research, 2008.8.7, 北京体育学院(中国).

[図書](計11件)

①舛本直文, オリンピック競技大会. ブリタニカ国際百科事典(web版), ブリタニカジャパン, 2011, 84ページ(48,923字)

②Naofumi Masumoto, International Olympic Truce Center. 'What with the Japanese rush for medals': Japan's Olympic Truce Appeal before the Games of the XXVIII Olympiad. in International Olympic Truce Centre (Ed.) Olympic Truce: Sport as a Platform for Peace. 2009, 71-75.

③ジム・パリー、ヴァシル・ギルギノフ、舛本直文 訳著. オリンピックのすべて: 古代の理想から現代の諸問題まで. 大修館書店, 2008, Pp.399.

④Naofumi Masumoto, Creating Identity: Olympic Education in Japan. In A. Niehaus and M. Seinh (Eds.) Olympic

Japan: Ideals and Realities of (Inter) Nationalism. Ergon Verlag, 2007, 33-45.

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計◇件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

<http://www.sci.metro-u.ac.jp/sport/personal/masumoto/masumoto.html>

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

舛本 直文 (MASUMOTO NAOFUMI)  
首都大学東京・人間健康科学研究科・教授  
研究者番号：70145663

### (2)研究分担者

( )

研究者番号：

### (3)連携研究者

( )

研究者番号：

### (4)研究協力者

王 一民 (大学院後期課程生・華中師範大学・  
体育学院・講師)

海外共同研究者：

任 海 (北京体育大学オリンピック研究所所  
長・教授)

Micheal MacNamee (ウェールズ大学スワン

ジー校・健康科学部・上級講師)

Robert Barney (カナダ、ウェスタンオンタリ  
オ大学オリンピック研究所所長・名誉教授)

Gordon MacDonald (カナダ、ウェスタンオン  
タリオ大学オリンピック研究所・研究員)